

「顧みれば」

土岐市教育委員会 教育委員 大橋 廣

私事ですが、教育委員7年目、御年77歳の高齢者です。団魂世代の一代目として、小・中・高・大といつも競争社会に生きてきました。小・中は、常に50数名の大クラスでした。中学校では、教室が足りず理科室と技術・家庭科室も普通教室として使用していました。今思えば先生達も全て一人でクラスの面倒をみなければならず、とても大変だったなーと今になって思います。

さて先日、NHKの番組で、作曲家、銀行員、歌手小椋佳と昨年10月に74歳で死去した歌手、アリスのメンバー、北京大学教授の谷村新司の対談番組が再放送されました。小椋佳は、現在80歳。すでに生前葬も済ませて十二分に生きたと語り、谷村新司は自分の出来る事は総てやり遂げたと語りました。そして最後に小椋佳が人生の集大成の歌として「顧みれば」を歌い、谷村新司に贈りました。この歌詞の内容が、とても素晴らしく勝手ながら自分と重ね合わせ感動して聴きました。その歌詞の中で私の心の中に響いた歌詞の一部を紹介します。

「教科書のない一度限りの人生を まあよく生きて来たと思う」

「友の支え女性の救い出逢いの恵み数多く 運良く受けて来たと思う」

「顧みれば 過ち挫折一度ならず重なりを まあよく越えて来たと思う」

「力不足、才能超えて果たせたことも数多く 心は充ちて来たと思う」

「顧みれば 事故災いに幾度ともなく襲われて まあよく無事に来たと思う」

「人が見れば名も実も得て 心豊かな暮らし振り 望み以上で来たと思う」

「運命を満喫したと思われる今 顧みれば今 込み上げる想い わたしの運命に関った 全ての人々にありがとう」

小椋佳

ラジオ体操は「する」? 「踊る」?

富加町教育委員会 教育委員 板津厚子

「♪新しい朝が来た 希望の朝だ 喜びに胸を開け 大空仰げ～」
夏休みの朝といえば、ラジオ体操。富加町内の子ども会では、ラジオ体操に取り組んでいるところがいくつもあります。参加するとカードにハンコが押してもらえる喜びは、今も昔も変わらないようです。

今年の8月7日、富加町では「夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操会」があり、全国に向けて生放送がありました。この写真は、そのときの様子です。町内外から約650名の方々に参加され、中には県外から参加された方もあったそうです。



実は、富加町でラジオの生放送が行われるのは、今回が初めてではありません。町の記録を見ると、昭和62年8月8日に開催されています。3500人近くが参加したそうで、その様子を載せた広報には大勢の人が空に向かって手を伸ばす姿が写っています。当時の富加町の人口が5900人近くだったことを考えると、かなり多くの人々が集まり盛況だったことがうかがえます。

これを機に、毎年8月に町民が集まり、「町民ラジオ体操会」が開かれるようになりました。町内在住のラジオ体操指導士である坂井久子さんから、正しい動きを指導していただきながらラジオ体操に取り組んでいます。

坂井さんは、平成22年4月に「半布里の郷とみか(道の駅)」がオープンしたことをきっかけに、道の駅を会場に毎日ラジオ体操会を開いています。当初は、道の駅がにぎわう場所になることを願って、町内の知り合いを中心に声をかけて30人ほどで始めたそうです。今では、町内だけでなく通りがかりの運転手やライダーの方々の飛び入り参加もあり、輪が広がっているそうです。「毎日お互いに顔を見て体操をして帰る。初めて会う方も一緒に体操をする。特に説明がなくてもみんなができますからね、そういうつながりができるのもラジオ体操のよさではないか、日本の文化のひとつですね。」と坂井さんは語って見えました。

平成28年8月18日にも全国放送が行われました。このときは、8月の「町民ラジオ体操会」が30回目を迎えることを記念して開催されました。保育園児からご高齢の方まで約900人の参加があり、富加町マスコットの「とみぱん」も並んで体操をしている姿が写真に納まっています。

そして、今回の令和6年は、富加町誕生70周年を記念して行われています。今回も小さな子からご高齢の方までみんなで体を動かし、さわやかな時間を共有することができました。このように、30年以上もの長い間、継続して取り組んでいる自治体は県内には富加町の他にはないそうです。

ラジオ体操は、子どもの頃から取り組んでいる身近な運動であると同時に、小さな子もご高齢の方もみんな知っているため音楽が流れるだけで一緒に活動することができます。それがコミュニティを作るきっかけにもなります。単に運動不足解消の機会というだけではないようです。

ところで、私の知り合いの一人が、「ラジオ体操を踊る」という表現をします。「踊る」? ラジオ体操は「する」ものでしょ? ずっとそう思っていました。

しかし、あのおなじみの音楽が流れ始めると、全ての人が同じ動きを始めます。特に説明がなくても、最後まで止まることなく動き続けます。体を動かすことが好きだけど人の言うことを聞いていないうちの息子も、あの音楽を聴くと体操を始めます。そんな姿を見ていると、「ラジオ体操を踊る」という表現も、なるほど、言い得て妙だと思いました。でも、やっぱり、ラジオ体操は「する」ものだと思いますが…。